

様式1

平成26年度 学校評価報告書

学校名 三重県立四日市高等学校

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する課題
スーパー・グローバル・ハイスクール	<p>スーパー・グローバル・ハイスクール事業(SGH:H26年度~H30年度)を契機に新しい高校教育の在り方を研究し、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む高校として、その役割を果たします。</p> <p>1 今後5年間の取組の基盤づくりに取り組みます。</p> <p>①総合的な学習の時間『グローバル・マインド』 ②学校設定教科・科目『グローバル・リーダー学』 ③グローバル・アクション ④白熱英語講座 ⑤効果測定</p> <p>2 次年度以降、新たな海外フィールドワークが安全で効果的に実施できるよう、充実した企画を策定します。</p>	<p>1 ①『グローバル・マインド』の取組は1・2学年全員が自ら課題を設定し、視野の拡大等を目指して論文作成に取組み、12月の論文交換会にて他者との意見共有ができた。 ②『グローバル・リーダー学』は、土曜日に年7回、のべ42講座、大学教授や企業の専門家を招き、研究課題について考察や討論を深め、その成果を12月の提言型の公開プレゼンテーションに結実させた。 ③グローバル・アクションは、海外フィールドワークとして、カンボジア研修やインドネシア研修を実施し、世界の多様性を体験できた。 ④白熱英語講座は、11回講座を実施し、生徒は熱心に取組み、好評であった。 ⑤効果測定の意義等について、担当者間で確認することができた。また、生徒質問紙の内容を概ね確定できた。</p> <p>2 海外フィールドワーク枠50人を確保。 ・中国(天津)、カンボジア・タイ、オーストラリアにおけるプログラムを策定中。</p>	<p>①『グローバル・マインド』は論文作成のための十分な時間の確保が必要である。 ②『グローバル・リーダー学』は、講師の確保や論文についての専門性を有する継続的な指導者の確保が課題である。 ③グローバル・アクションは、校内諸行事・部活動・教科指導上の諸計画との整合性を図る必要がある。 ④白熱英語講座は、講師探しが大変であるが、来年は現在の講師が担当できる予定。 ⑤よりよい事業評価について、他校比較等も視野に工夫が必要である。</p> <p>※初めての取組であったが、大きな成果をあげることができた。一方で部活動や学校行事、各種の特別活動と実施時期が重なる等の課題を解消するような工夫が必要である。</p>
学級経営・学力向上	<p>ハイパーQ-Uを年定期的実施し、学級の状態や生徒の実態を把握するとともに、学力の向上、いじめや不登校の未然防止のために活用し、理想の学校、理想の学級作りを目指します。</p> <p>1 「ハイパーQ-U」を年2~3回実施し、学級集団の状況や生徒一人ひとりの状況を把握し、親和的な学級集団の育成に取り組めます。</p> <p>2 生徒が興味関心を示し、内容を理解し学力が向上する授業を実践するために、「授業改善アンケート」を年2回実施し、「説明や発問等の仕方」「教材の準備や提示の仕方」「指導の工夫」等の視点別に教員が自己評価し、改善することにより、授業の質の向上を図る。</p> <p>3 定期試験、実力試験、実力養成試験などの他に確認テストや宿題テストなどを実施し、個人の学力を分析し、きめ細かい学習指導を行います。</p>	<p>1 ハイパーQ-Uを1・2学年は3回、3学年は2回実施し、ほとんどの学級が満足型であった。</p> <p>2 授業改善アンケートを2回実施し、「授業を受けて学力が向上した」の回答率は、63.9%(1回目)→64.5%(2回目)に上昇。 ・教科担当教員による自己評価活動も、生徒アンケート等も活用して活発に行われた。</p> <p>3 定期試験4回、3年実力試験4回、1・2年実力養成試験3回等計画通りに実施するとともに、土曜学習会や補習授業が計画に沿って機動的に実施できた。</p>	<p>SGHのプログラムを実施するには、総合的な学習の時間をはじめ多くの時間を必要とするため、実態把握アンケートやスキルトレーニング等を最少の回数で最大の効果があげられるよう、次年度の年間計画を策定している。 膨大なデータを集約・処理し職員にアンケート結果を配布する事務作業が過大である。 各種の試験を計画的に実施することにより、生徒の学力把握と授業改善につながっている。</p>
人権教育・生徒指導	<p>1 観察法(授業や日常の対話)の他に調査法(各種アンケート調査)、面接法(個人面談、三者面談)を実施し、生徒の進路に関する不安や友だち関係、家族関係など様々な悩みを把握し、いじめや体罰の未然防止や早期発見を行い、必要に応じて関係機関との連携、スクールカウンセラー(教育相談専門員)や教育相談担当者、養護教諭と連携して生徒一人ひとりを取り巻く環境の改善や心のケアに努めます。</p>	<p>1 個別面談を年4回、教育相談担当面談を年11回、ケース会議を年3回実施するなど、実態把握と対応について情報共有に努めた。 ・長期欠席生徒数の減少率=40% ・体罰の回数 0回</p>	<p>いじめ調査を4回・体罰調査を1回実施し、いじめ・体罰事案の早期発見に努めるとともに、調査結果を精査し、必要に応じて、生徒との面談等につなげた。今年度はいじめ・体罰事案ともなかったが、継続して取り組んでいく必要がある。</p>

<p>学習指導・授業内容の充実</p>	<p>生徒が学力を高めることができる指導を充実させるとともに、本校独自の学習指導方法を活用し、継続して授業内容の充実に努めます。また、授業時間の確保に努め、学力の保証、充実、伸張に努めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教員が出張で授業が欠ける場合は、時間割変更を徹底し極力自習時間をなくします。 2 習熟度講座、少人数講座等を実施し、理解や定着を図り、生徒の満足度を高めます。 3 土曜学習会や課外授業(夏期講座含む)を充実させ、個に対応した指導を行います。 4 事前に保護者、生徒の希望を取り入れた上で進路検討会議を実施し、個に応じた進路指導を組織的に行い、生徒の学力、適性にあった進路を実現します。また、保護者に最新の進路情報を提供し、生徒への受験支援や理解を図ります。 5 進路主任を座長とする「学力向上戦略会議」(校長直轄)を定期的に関き、ハイパーQ-U項目と学力の相関分析、授業改善等に先進的な取組を行っている高校の実態の把握、指導方法の工夫、シラバス進捗状況のチェック、学年間情報連携等を行い、学力向上のための戦略と戦術を研究する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 時間割変更の徹底は実施できた。 2 学力検討会議は各学年で概ね2週間に1度開催し、理解度や定着度、満足度などの向上に努めた。各種校内試験や校外模試等を分析し、生徒一人ひとりの学力向上について学年や教科等で共有した。 3 土曜学習会年間11日実施年課外授業は通年・夏期課外授業を含め計画的に実施し概ね達成した。3年生は高い志望校合格を実現した。全員の進路実現は未確定。 4 3年次の生徒個別面談6回、保護者面談2回、進路検討会議4回、進路講演会1回。また、保護者との連携を密にし、生徒・保護者の希望を適確に把握したうえで、個に応じた進路指導を組織的に行い、生徒・保護とも満足する進路選択ができた。 5 「学力向上戦略会議」を隔週で定期的に関催し(年14回)概ね達成した。1・2年生は基礎学力の定着とその到達度の確認を目的として校内実力養成試験を3回、3年生は、大学等の入学試験に対応する高い学力の養成を図り、その学力を測定することを目的として校内実力試験を4回実施。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 次年度も時間割変更の徹底を維持し、自習時間をなくする必要がある。 2 各学年での取組や課題等を把握し、学校全体として生徒の学力保障、充実を実現するため、学年間の連携を一層強める必要がある。 3 土曜学習会への参加機会を保障するため、SGH等の土曜日の学校行事について調整が必要である。 4 根拠に乏しい安易な情報に流されることのないように、生徒だけでなく、保護者に対しても最新で正確な進路情報を提供する機会を増やし、支援していく必要がある。 5 校内実力試験における偏差値は校内生徒の中での相対評価となるため、生徒一人ひとりが学年始めより学年終了時に成績が向上していることを把握するためには校外模試と合わせて評価することが必要。
<p>市民性・社会性の陶冶、組織力の向上、防災教育</p>	<p>生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、さらに将来において社会的に自己実現ができるような資質・態度を形成していくための指導・援助を行い、個々の生徒の自己指導能力の育成を図ります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 クラスルームソーシャルスキルトレーニング(CSST)シートの活用、エンカウンターの実施等を取り入れ、生徒相互が育ち学び合える集団を育成します。 2 SGHの取組と連携して人権学習を実施し、人としてのあり方・生き方を考え、生徒の人権に対する意識を高めるとともに、関わりのスキル、配慮のスキルを高めます。 3 生徒同士、教職員、外来者等に対して場面に応じた挨拶ができるスキルを身につけるために、生徒会役員、室長、運動・文化部の部長が核となった挨拶運動、トレーニングシート等を活用したロールプレーを実施し、生徒のコミュニケーション能力向上につなげます。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 CSSTを年2回実施し、市民性・社会性が涵養された。3年生については、受験に向けストレス耐性を持った生徒の育成ができた。学年終了時においてほとんどの学級が満足型になった。 ○人権講演会1回実施(【テーマ】グローバル化が進む社会における人権) ○人権教育観点の授業公開2回実施。 ○生徒の人権取組自己チェック表において8割が「概ね取り組めた」であった。 3 生徒を主体とした挨拶推進運動を年2週実施。 ・学校関係者評価委員からは、SGH等の先進的取組と学力向上・進路保障について高い評価があった。 ・授業公開日の保護者アンケート →概ね達成できている(125/148で84%) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業で一人一人の生徒を大切にす人権教育の観点について、学力向上との相関関係を精査する必要がある。 2 校内の授業研究の体制について、共通認識を図る必要がある。 ・本校の伝統的な生徒主体の人権教育を、限られた時間と回数の中でどのように受け継いでいくか研究が必要。 《第一回人権講演会》 【演題】「多様性の発見」 【講師】聖学院大学学長・姜尚中さん 3 学校関係者評価委員が全員改選であり、新たな委員を委嘱する必要がある。
	<p>教育計画や指導方法に関する実質的な議論が行えるように、各種委員会の充実や情報交換会等を設けるなどして組織を活性</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 時間割に教科会を組み込むことにより、各教科とも十分な回数(10回以上)を 	<p>学習指導委員会をパイプ役として、教科会が主体となり、より一層授業改</p>

<p>化させ、全員一丸なって生徒の状況の迅速な把握と対応に努めます。</p> <p>1 教科の指導計画や教材の共有化等を図り、教科内の情報交換を進めます。また各教科、科目指導計画の進捗状況調査を行い、学習指導の品質を整え、充実を図ります。</p> <p>また、質、量の両面から生徒の実態に合った課題が提供されているかについて必要に応じて聞き取り、定期的に検証し、適切な家庭学習が行われているかを把握し、生徒の学力向上につなげます。</p> <p>2 各種面談、アンケート調査、ケース会議などの結果から得られた情報、知見をもとに主任会議や各種委員会を定期的に開催し、情報の共有を図るとともに校務分掌や部活動の在り方等も含めた学習者本位の視点から改善点を検討し継続した学校経営改善に取り組みます。</p> <p>3 緊急地震速報の活用訓練、津波、火災、地震等やさまざまな災害を想定した実践的な避難訓練を、消防本部の指導助言のもとに実施します。</p>	<p>確保している。</p> <p>相互の授業参観(年間参観最低1回以上)や、進捗状況・授業改善・試験の検討・教材の検討等を推進した。</p> <p>また、面接や多様なアンケートを実施することによって、生徒の実態を適切に把握している。</p> <p>2 各種面談、アンケート調査、ケース会議などを着実に実施してきた。また、学力向上戦略会議をはじめとする各種会議において、情報の共有を図るとともに、学校関係者評価委員会等の助言により、学校経営の改善に取り組んでいる。</p> <p>3 地震、津波、火災を中心に、避難訓練や消火訓練、教材を使用した防災教育などを実施した。</p>	<p>善の取組が行われるよう、管理職・教務部による支援の強化が必要である。</p>
---	--	---

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"> 校長の学校経営の改革方針の実現に向けて、組織として努力・実践しようとする意識が高い。 SGH等に取り組もうとする進取の精神があり、工夫して実行することができる。 教職員の教科指導や進路指導に対する意識は非常に高く、常に授業改善に取り組み、進路指導研修会などに力を入れている。 生徒主体の人権教育が継続的に行われている。 保護者や地域からの高い期待に応えようと努力する職場風土があり、成果も出ている。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> 勤務時間縮減のために部活動顧問の副顧問制を進め、一定の改善はみられたが、まだ不十分である。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数>	3 回
実施内容	<p>年3回実施し、全てにおいて企画委員との対話形式で運営した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回(6/30)・・・本年度の学校経営改革方針及び教育活動方針について説明を行い、SGHの取組への理解と協力を得ることができた。また、職員負担の軽減、過重労働の解消等について助言をいただいた。 第2回(11/14)・・・授業参観とPTAアンケートをもとに授業改善、課外活動、土日の活動等について、協議を行った。 第3回(2/9)・・・本年度の活動報告を行った後、各部主任を加えて質疑の時間とした。

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> グローバル人材の育成のため、SGHの取組を、包括的に益々推進して欲しい。 コミュニケーション能力の向上に努めて欲しい。英語力はもとより、外国の方とのコミュニケーションの機会を増やして欲しい。 授業改善への取組は高く評価でき、継続・発展を期待する。 評価活動の資料については、より具体的で成果がわかるようなものになるよう工夫が必要である

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組	
<ul style="list-style-type: none"> SGH事業がさらに有効なものになるよう、1年目の成果と課題を踏まえ次年度の改革方針を策定する際、負担の偏りが是正されるような工夫を取り入れる。 海外フィールドワークの位置づけを、職員・生徒にさらに浸透させることで、学習活動・特別活動・学校行事等とさらに調整がとれた企画とできるよう、配慮する。 新課程や、新しい大学入試等を見据えて、3年間の指導体制について検討を進め、必要な改革を進める。 	